

鎌田 慧さん

昨日まで晴れていたのに、こういった天気になって残念です。風邪を引かないように元気で帰って下さい。

高市首相が今、アメリカに行っています。彼女がアメリカに行ってトランプ大統領から何を押しつけられて帰ってくるか僕らは心配しています。トランプの強欲的な、人を省みない、それと一体となっている姿勢を恥ずかしい思いでいます。ああいう政治に対して全く抵抗力のない内閣が今日本を支配している。全く頼りない思いです。日本に原発が有るから原子力潜水艦が有っても良いではないかという議論になっています。つまり、原発が核武装へと原潜をてこととして核武装論に始まっていくという流れになっている。本当にもう今の内閣は早く辞めさせるしかない。その国民大運動をどんどん進めていきたい。

福島事故後に原発は減らしていくのが約束だった。それが、岸田内閣以来、最大限再稼働して活用していくとなっている。福島事故あるいはいろんな所で事故発生の前段がある。北海道の幌延の高レベル放射性廃棄物、核のごみの処分についても反対を押し切っている。基準地震動の改ざんとかいろんなスキャンダルを押し切って再稼働をしようとしている。

5千億程度で済んだ原発が1兆あるいは2兆になっても原発を進めようとしている。とにかく、どこかで断念させなければいけない。原発にはもう未来はない、という運動をこれからも拡大していきたいと思っています。とにかく原発を許さない、再稼働を許さない。

私の故郷の青森県の六ヶ所村再処理工場は全く稼働していない。もう30年間も稼働していない。27回も稼働延長してもできていない。再処理工場が稼働すれば、人間が入れない場所ができてしまう。高レベルの放射能で汚染されていく、こういった施設がどうして稼働していくのか。来年3月にも稼働するとか言っていますが、原発を残すために再処理工場を稼働させるストーリーは破綻しています。高市内閣が原発を推進していくならば、原発はだめだ、自然エネルギーでいこうという運動を私たちは進めていきたいと思います。

立山大貴さん

みなさん、こんにちは ワタシのミライという団体で活動をしている立山といいます。ワタシのミライは2023年から活動をしているけれど、僕自身は2019年から気候変動の活動に参加しています。環境のための～街作りに参加してきました。2019年当時は今程、気候変動という言葉が普及していなくて地球温暖化という話しでようやく具体的にってきた時代だと思います。その初期から身近な言葉にしてみんなで対話の場づくりをしてきました。問題提起をして反応をみて、詳しくない人もこの問題に対して何かでききるかということかを話すことから始めて、話すことで行動ができるような場を作ることを行ってきました。それから7年経って気候変動という言葉が大分浸透してきたように思います。

浸透してきたらもっと良くなるだろうと当時は想像していたけれど、実際は思ったほど状況は良くなっていないと思います。今年も各地で大雨の被害が続いていますが、国の政策も進んでいなくて、後ろ向きなままでヤバイ状況です。

気候危機を救う為にはエネルギー問題が重要だと思います。環境汚染もそうですし、CO₂の排出においてもエネルギーが大きな役割を占めています。CO₂を出さずに政府の進める政策は原発に限られています。実は僕自身も恥ずかしながら2019年は当時大学生で地球環境学をやっていたんですけど、CO₂ゼロに原発は最適であるという情報を受け取っていました。もっと安全で、もっと効率的で実際に事故が起こらない原発が有るんだという情報もその当時、理想的な原発が有るかも知れないと思いました。しかし、気候変動に関わる中で原発について実際もそうですし、いろんな場所で原発を知っていく中でこれは非常に問題で有ると気づきました。気候危機のために原発を推進するのはとんでもない話であるとうまく気づくことができました。本当にこの事は多くの人に知られていないことだと思っています。エネルギーのあり方自体、少しでも電気を減らす。化石燃料、原発も搾取的な構造にNOを突きつけてエネルギーを公正な状態にすること、大規模な発電ではなくもっと個人でエネルギーを賄われるよう僕たちも発信していきたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

高野 聡さん

原発のない世界をめざす同志のみなさん、原子力資料情報室で活動している高野です。国は高レベル放射性廃棄物の処分に向けた第一段階である文献調査の実施地域を増やすことに前のめりになっています。8月31日には国は突然、茨城県常陸大宮市に対して文献調査の申し入れを行いました。この場所にも茨城県からいらしゃった方がいると思います。しかし、常陸大宮市は棚倉断層帯による大地震が起こる可能性があります。茨城県も最大震度7の大地震が起こりうる地域であり、茨城県も最大震度7を想定しています。また、常陸大宮市の岩盤は複雑な断層が組み合わさって構成されており、地下の安定性が懸念されています。そもそも日本の地盤の安定性について専門家において合意がとれていません。それにも関わらず国は説明責任を果たさず、住民の声に耳を傾けることなく突然調査の申し入れを行いました。このような高姿勢では非民主的なやり方では地域住民の混乱に巻き込むことは必至です。国は即座に申し入れを撤回し、常陸大宮市は申し入れを拒否すべきです。

国は原発を使い続け恩恵をうけてきたから国民は現世代の責任として核のごみ問題を解決しなければならないと主張しています。しかし、国や私たちの第一の責任は福島事故の反省に立ち、地域住民への負担を少しでも減らすためにこれ以上核のごみを増やさない事ではないでしょうか。無責任な姿勢に強く抗議して行きましょう。そして、社会や後生に負担を増幅させる核のごみをや原発を推進することは気候正義に真っ向から反すると思います。私たちはそのような動きを一致団結して跳ね返していきましょう。

次に南鳥島での文献調査については小笠原村民の方からメッセージを頂いているので代読して私の発言を終えます。

「みなさん、こんにちは。小笠原村母島出身の宮澤かれんと申します。私は今、8bit ニュ

ースの小笠原特派員として、そして一小笠原村民として南鳥島での放射性廃棄物の最終処分について、取材をしています。小笠原村に南鳥島を対象とした文献調査の申し入れがありました。恥ずかしながら私はその時まで核のごみについて何も知りませんでした。核というものを自分の暮らしとは遠いものだと感じていました。でも、今回文献調査の対象となった南鳥島について調べていくうちに、衝撃という感覚が伝わってきました。小笠原ではザトウクジラがとても身近な存在です。夏には北の海で餌を食べ、冬になると繁殖のためはるばる小笠原の海までやってきます。また、2021年に海底火山福德岡ノ場が大規模噴火した際に放出された軽石がたった2ヶ月で1300キロ離れた沖縄まで辿り着きました。海を通じて何千キロも離れた場所と小笠原と繋がっている。私たち小笠原村民は暮らしの中でそういうことを感じています。だから、南鳥島も1000キロ以上離れて言って、私たちにとってただ遠い島の話しではないのです。さらに調べていくと南鳥島は生き物にとって貴重な場所であることが分かりました。南鳥島で初めて見つかった魚や日本では南鳥島を繁殖地としている海鳥もいます。

小笠原村には様々な立場の人が暮らしています。それぞれに生活があって大切にしたい家族や仲間があります。文献調査を受け入れた事を巡って賛成、反対の二極化になってしまふことが本当に辛いです。私自身まだ分からない事が沢山あります。だからこそ、まず知って話して考えたいです。小笠原のことを遠い島の話しにしないために、これからも島の人たちと対話すること、声を挙げることを諦めないでしたいです。ありがとうございました。

山崎 誠

みなさん、こんにちわ。雨の中、本当にお疲れ様です。毎年、私も参加させていただいているのですが、風向きが変わってしまいました。全国ご当地エネルギー協会というところで、今日頂いたテーマである再生可能エネルギーの運動を一生懸命応援しています。5分しかありませんので何を話そうかと思ったのですが、皆さんもう原発はいらないとここに集まっているみなさんは全員の一致した意見、想いだろうと思います。では、代替りのエネルギーをどうするんだ、再生可能エネルギー、自然エネルギーこれを上手くすれば日本のエネルギー、際せ可能エネルギー100%が必ずできます。拍手足りないですね。必ずできる。

みなさん、大事なことは電気だけではありません。エネルギーというのは例えば自動車、飛行機、船、あるいは水を利用する産業があります。このエネルギーの全て、全部が再生可能エネルギーになります。電気だけの再エネ100%はもうちょっと頑張ればできます。熱とか動力を含めて全部は結構大変です。少なくとも2050年には再生可能エネルギー100%、電力は化石燃料はいらない、そういう社会を作りましょう。そういう日本を作りましょう。

じゃ、どうやるんだ。例えば太陽光発電、今すごい悪者になっています。釧路湿原に太陽光パネルを敷くとか、山や谷を埋めて太陽光パネルを置くとか、そういう話ばかりニ

ユースでやっていますよね。あれは失敗事例です。ちゃんとルールを決めて環境調和を図れば、太陽光発電はまだ入ります。でも、我々言っているのはソーラーシェアリングです。聞いたことがありますか。農地の上に太陽光パネルを置きます。隙間をあけて。下を農地にしながら、上で発電をする。営農型太陽光発電、これは農水省も一生懸命旗を振っている事業です。これをちゃんとやったら今、耕作放棄地いる農地、大体 10%位が耕作できない農地です。これを使うだけです。今、全国で使っている電力の 2 割から 3 割はソーラーパネルで賄うことができるんですよ。すごいではないですか。屋根の上に太陽光発電をつけましょう。ドイツではプラグインソーラーです。パネルを買ってきてベランダに付けてコンセントに差せば使えるんですよ。自分の家で太陽光を使えるんです。ドイツは電気代の補助がないから、電気代が高くなった。だから、自分で発電しようと太陽光発電が伸びている。日本はどうですか。高市政権、一生懸命補助金出している。電気代安くするからどんどん使ってください。いつまでこれをやっているんですか。税金を再生可能エネルギーに使いましょうよ。

必ず原発も化石燃料もいらない。環境にもやさしくて、放射能のリスクも取り除くことができる。ソーラー再生可能エネルギーの導入が絶対出来る。ぜひ、皆さん自信を持って原発はいらない、化石燃料もどんどん使っていくのはやめましょう。風力発電だってあるでしょう。技術はどんどん進歩する、太陽光パネルを中国から買ってくるのはけしからんといっているのではないですか。日本は 10 数年前は日本の太陽光パネルは世界の市場を握っていたのですよ。太陽光発電は中国が技術開発をしているから世界を席巻しています。選択が間違っていたのです。やり方が違うのです。みなさんと一緒に脱原発に取り組んでいきます。今日はお疲れ様です。ありがとうございました。

笠谷航平さん

こんにちは。私は笠谷航平と言います、今、子ども甲状腺がん裁判、3・11 当時子どもだった甲状腺がん罹患してしまったのは東電の責任であると立証して、賠償を求める裁判を起こしているのを支援している者です。僕がこの裁判を支援するきっかけになったのは、普通に友人から誘ってもらった訳ですけど、やはりこの裁判の重要かと思ったかは自分と同世代だからです。僕は今、27 歳ですが、ちょっと年下の世代とか年上の世代の人たちもいます。同世代の人たちが原告です。僕が今、20 代後半の人生を生きていて、やはり重要な時期であると感じていて、それは原告の人たちも同じだと思います。みんな進学とか就職をここ数年の間に経験してきて、その過程において病気になったことで物凄い不利益を被っていた。進学だったら、これだけの勉強をしたいけれど病気のためにできない。治療の為に時間を取られ、お金を取られてしまうという不利益があるということで、ちょっと行きたい所を別の所になってしまう。就職だったらここに就職したいけれど、そんなに大変な仕事はできない。自分は病気の治療をしながらでないと働けない、諦めざるを得ないというような人生において重要な岐路において物凄い選択を狭められてしまう。原告の

人たちは。

経済的な負担とか精神的な負担もあるけれど身体的な負担も勿論ある。甲状腺がんは罹患したら手術は受けなければならない、本当に小さい腫瘍なら取らなくても良いけれど、やはり甲状腺がんにかかって治療が必要と判断された原告の人たちは手術を受けて、その後に控えているいろいろな人生における重要な選択肢が狭められてしまう。手術を受けても再発してしまった人も原告の中にはいて、特殊な治療、放射線を体内に取り込んで直接甲状腺にあるがん細胞を壊す治療をしなければならない。過酷な、肉体的にも過酷な治療が必要になってくる。そういったことは本来ならば、やらなくて良かったことです。原発さえなければ、その病気と闘う必要もなかった。人生において何かを諦めざるを得なかったという状況も発生しなかった。やはり、東電にはそれを償ってもらわなければいけないと考えています。この裁判は合法的な暴力が降りかかってきた典型的な例だと思っています。やはり原発はいろんな建前の元に進められてきたものだと思うけれど、それで経済的な利益だったり科学技術の進歩、そういった漠然とした大きなもの、抽象的なもののために一人一人の人生を壊されることはあってはならないものだと僕は思っています。皆さんにこの裁判を支援して貰いたいなと思っています。期日の時に傍聴に駆けつけてくれるのも有り難いし、寄付なども募っているので皆さん是非原告の人たちに心を寄せていただきたいと思います。

僕は実はラップをやっていてダースさんを見ていて触発されたので、ちょっと短くラップをして終わりたいと思います。「福島で連発する甲状腺がん、東電嘘つく過剰診断、そんなのぶっ壊す最強弁護団、みんなも東電抗議しようがんがん」ありがとうございます。